



京急線脱線事故で再確認した運転士の[職責の重さ]

生半可な乗務員では 命を守れない!!

2019年9月に京急線で発生したトラックと列車との脱線衝突事故で、神奈川県警は今日7日、当該列車の運転士を書類送検しました。

運輸安全委員会が今年2月に公表した調査報告書では、当該列車は120km/hで走行しており、架線柱などで信号が断続的に遮られていた上、信号を確認できる位置から1.8秒以内に非常ブレーキをかけなければ衝突を防げなかったとして、会社側の不備を指摘していました。しかし、神奈川県警は「適切にブレーキを操作していれば踏切手前に停車できた」と判断しています。

今回の京急線の脱線事故で、私たちは改めて乗務員の責務を胸に刻み、安全な鉄道と、そのための働きがいある職場をつくるために、おかしいことにはしっかり声を上げていかななくてはなりません。一方で、会社経営陣が「乗務員はガチャガチャやってるだけ」「乗務員の仕事は単純作業」などと乗務労働の特殊性を否定し、コロナ禍における厳しい状況下で、安全安定輸送の確保に奮闘する乗務員を蔑視するハラスメントが行われています。

乗務員の仕事は「お客さまのいのちを守る」という使命のもと、神経を尖らせなければならない緊張の連続であり、一朝一夕で身につくようなものではありません。様々なシステムが導入されても、最後は人間の注意力が全てです。

赤字経営の今だからこそ、安全とお客さまを大切にする、社会を大切にする、そのために社員を大切にする企業経営を実現するために、すべての仲間と共に行動していきます。

今こそ必要なのは社員を大切にする企業経営だ！

JR 東日本で働くすべての皆さん！

輸送サービス労組に結集し、差別のない

会社・職場を一緒に取り戻しましょう！